いの流水俳壇

友草　水月　選

「当季雑詠」

明日はあす今日を生きたし合歓の花
小野川町子

（評）明日のことは明日にして、とにかく今日一日は精いっぱい元気に楽しく過ごしたいという願望である。「人生一寸先は闇」だとの諺もある。人間は生身の体、良きにつけ悪しきことにつけ明日のことは何が起こるか分からない。だから今日は今日で精いっぱい充実した日を送りたいと願っているのである。明日のことは明日にと達観した人生観である。

なお過日作者の句がNHKの「きょうの一句」「針千本ときには呑んで生き上手」と紹介放映されていたが、人生には苦難がつきもの、それを乗り越えてこそ新しい道が開ける。

○花合歓に夕日旅人とどまらず
大野　林火

こけ句う四万十川の鮎なつかしき
石原　静

（評）6月1日県内各河川の鮎漁解禁となった。今年は天候も良く鮎の遡上も多く、大きく成長していると聞く。掲句は四万十川で捕れた鮎、買ったのか頂いたのか川の苔の匂いが懐かしいと詠んでいる。

鮎は藩政時代から香魚として賞味され、北海道の南西部から南は九州までの河川で生息している。秋に川下で孵化した幼魚はいったん海に下り、冬は海で育ち春に川を遡上し川床の苔を食す。そのために一種独特の香りがする。上流で成長し秋に川を下り下流で産卵して一生を終える一年魚である。

○鮎食べてかなしきまでに山の冷
秋山　幹生

合歓咲いて急坂やさし避難道
刈谷　志津

（評）いつ起こるか分からない地震や津波、豪雨などの災害を想定して全国各地で避難訓練が実施されている。先の東日本大震災では津波や建物の倒壊で1万数千人の尊い人命や財産が失われた。この経験で自分の命は自分で守ることを基本に各地で取り組んでいる。少しでも高台へと急な坂道を上る途中に合歓の花が咲いており、急な坂道のしんどさも優しく感じたのである。

道端の草花、花壇の花、花は人間の心を癒してくれるのである。

○合歓咲くや此処より飛騨の馬糞道
前田　普羅

青田風豊作祈る散歩道
森岡　照月

（評）緑色を深めた青田の稲も順調に成長している。その田んぼ道を散歩している作者は秋の豊作を祈る気持ちである。散歩している青田の風景や作者の位置がよく分かる。

稲は熱帯アジアの原産。イネ科の一年草で日本での稲作は縄文時代後期に始まったとされている。日本文化形成に大きな影響を与えた。日本をはじめアジア人の主食であり最近では欧米なども米食が盛んになってきている。

○これぞ加賀百万石の青田かな
渋沢　渋亭

二句抄

背骨病む八十路にやさし竹婦人　蔦田恵美子
頂きし無花果ジャムを作りけり　津田　久美
きりもなく南天の花散るばかり　大川　節弥
花合歓やらと云う女学生　片岡　包女
共白髪共に杖引く茅の輪かな　川村　博子
夕焼やワイングラスに明日の彩　岡村　嘉夫
挑戦は進歩紙漉くひとりごと　國田　貞子
色紙漉く山草どこへ置きどころ　竹崎たかひろ
ゆすら梅含みて遠き日に帰る　小野川町子
野苺を食ぶ子も居らず村静か　石原　静
誤嚥などどこ吹く風と心太　刈谷　志津
眠り覚め仏に仕う蓮の花　森岡　照月
一夜にて音高鳴りし夏の川　友草　水月
車椅子泣きつ泣かれつ半夏雨
それぞれの心を唄う若葉雨
ドローンにも優る蜻蛉の眼の動き
闇砕く如く響くはたたがみ
初茄子に心おどりし夕餉かな
曇天の暗さ溶け込む梅雨の川
眠る葉に見上げし合掌合歓の花
登りつめ虚空を掴む瓜の蔓
雨意兆す風の騒ぎて青田波

名句鑑賞

朝顔に釣瓶取られてもらい水
水月

千代女

朝起きて水を汲みに行ったら釣瓶に朝顔の蔓が巻きついていて水を汲むことができず隣へ水をもらいに行ったとの説と、一方は夜中に若者の悪戯で釣瓶が盗まれていて隣へ水をもらいに行ったという説。民俗学者角川氏の説では、「あの地は夜這いの盛んなところでねえ」と言ったそうであるが、私は前者の朝顔に取られた方を取りたい。井戸のほとりに露を含んで咲きほこっている朝顔の蔓が巻きついている情景の方が実感があり、草花を愛する優しさが巧みに表現され文学的でもある。

次題「当季雑詠」
締め切り　毎月5日

投句先
教育委員会事務局
いの町1700－1
☎893－1922

今月のこども川柳

本読んで　心の風船　ふくらんだ
川内小　3年　ちだみなみ

【評】川柳は十七文字、一字一字がとても大切です。本を読んだ、そしてどうだったということがよく分かる。「心の風船」という表現が大変素晴らしく、小学3年生のみなみさんの表現力にバンザイである。

友だちは　いっしょにあそぶ　たからもの
川内小　3年　西内ゆいね

【評】友達をたからものだと気付いたゆいねさん。まだ小学3年生、きっとこれからも、たからもののお友達にめぐりあえることを願っています。

あわてるな　急ぐ気持ちに　赤しんごう
枝川小　4年　今橋　心愛

学校で　みんなかしこく　なるんだよ
枝川小　5年　山中りくと

あいさつで　あいてがえがおに　なりました
川内小　3年　ちだみなみ

体験で　科学学べる　科学館
枝川小　6年　山田まなみ

くぐったよ　大仏の鼻　きつかった
枝川小　6年　中岡ももか

先生は　いつもやさしい　ありがとう
枝川小　3年　今井まひる

そよ風が　季節を変えに　くるころだ
枝川小　6年　中脇　巴

なつやすみ　はなびたいかい　いきたいな
枝川小　3年　村田　ひな

「こども川柳」は町内全小学校の児童の皆さんを対象に募集しています。次回提出締め切りは9月10日（木）です。たくさんの皆さんの応募をお待ちしています。（応募は各小学校を通じてお願いします。）
※選評は、川柳漣会の皆さんにお願いしています。